第一生命
NEWS 宅配便

一生涯のパートナー
第一生命
第一生命保険相互会社
〒100-8411 東京都千代田区有楽町1-13-1
お問い合わせ:広報課 ☎(03)5221-3235
http://www.dai-ichi-life.co.jp/

2006年12月

全国の16～29歳の男女900名に聞いた
『青年層のメールによる異性とのお付き合い調査』

～「ほぼ毎日携帯メールをする」８割、「恋人や配偶者のメールチェック経験あり」３割、「年賀状を送らない」２割～

第一生命保険相互会社（社長 斎藤 勝利）のシンクタンク、（株）第一生命経済研究所（社長 石嶺 幸男）では、全国に居住する16～29歳の男女900名を対象に、標記についてのアンケート調査を実施いたしました。

この程、その調査結果がまとまりましたのでご報告いたします。

≪調査結果のポイント≫

通信メディアの利用状況（P2～5）

○年賀状を「送らない」人は約2割。年賀状を「送る枚数」の平均は、約24枚。
○「携帯メール」をほぼ毎日利用する人は約8割。「携帯の通話」をほぼ毎日利用する人は約4割。
○「恋人や好きな異性」からは、「携帯メール」よりも「携帯で電話」をしてもらった方がうれしい。
○出会い系サイトに「かなり抵抗がある」人は約7割。最も抵抗感が低いのは「20～24歳」。

電子メールの利用状況（P6～12）

○メールの手段として、約9割がパソコンは使用せずに携帯電話を使用している。
○メールをする場所は、「自宅（家族のいないところ）」が7割近くで最も多い。
○恋人から来たメールには約6割が「すぐ返信」し、8割以上が「30分以内」には返信する。
○メールの相手は「同性の、普段よく会う友人」が8割と最も多い。
○メールがなかったら連絡していない人は、「異性の、あまり会わない友人」が8割以上と最も多い。

恋人や配偶者のメール履歴のチェック経験（P13～14）

○チェックした経験が「ある」人は、男性15%、女性37%。未既婚別では、未婚20%、既婚63%。
○チェックされた経験が「ある（あると思う）」人は、男性19%、女性26%、未婚19%、既婚41%。

メールの普及による異性関係への影響（P15～18）

○最も多いのは、「それほど親しくない異性の知人とのやりとりがしやすくなった」（81%）。
○男性の方が多い回答は、「異性との出会いが増えた」や「秘密の異性の知り合いができた」など。
○女性の方が多い回答は、「恋人や配偶者を身近に感じられるようになった」や「異性の誘いを断りやすくなった」、「恋人や配偶者への不信感が高まった」など。
○もし恋人や配偶者から、異性の友人とのメールをやめろといわれたら、男性は「メールのやりとりをやめる」（41%）が最も多く、女性は「恋人や配偶者を説得する」（37%）が最も多い。

＜お問い合わせ先＞
㈱第一生命経済研究所 ライフデザイン研究本部
研究開発室 広報担当（丹野・新井）
ＴＥＬ．03－5221－4771
ＦＡＸ．03－3212－4470
【アドレス】http://group.dai-ichi-life.co.jp/dlri/ldi

≪アンケート調査の実施概要≫

1．調査地域と対象　　全国に居住する 16～29 歳の男女

2．サンプル数　　900 名

3．サンプル抽出方法　　第一生命経済研究所生活調査モニターと家族協力

4．調査方法　　質問紙郵送調査法

5．実施時期　　2006 年８月

6．有効回収数(率)　　710 名（78.8%）

7．回答者の属性

（単位:人）

	年齢層			合計
	前期青年層（16～19 歳）	中期青年層（20～24 歳）	後期青年層（25～29 歳）	
男性	74	82	72	228
	(10.4%)	(11.5%)	(10.1%)	(32.1%)
女性	113	164	205	482
	(15.9%)	(23.1%)	(28.9%)	(67.9%)
合計	187	246	277	710
	(26.3%)	(34.6%)	(39.0%)	(100.0%)

8．回答者の現況

（単位:%）

	全体	男性			女性		
		前期	中期	後期	前期	中期	後期
今、恋人がいる	25.1	11.0	34.1	22.2	19.6	37.4	21.2
今は恋人がいないが、以前はいた	26.2	31.5	32.9	30.6	26.8	30.1	17.2
恋人はずっといない	29.6	57.5	31.7	31.9	53.6	24.5	9.4
今、結婚している(配偶者がいる)	18.5	0.0	1.2	15.3	0.0	8.0	52.2
無回答	0.7	－	－	－	－	－	－

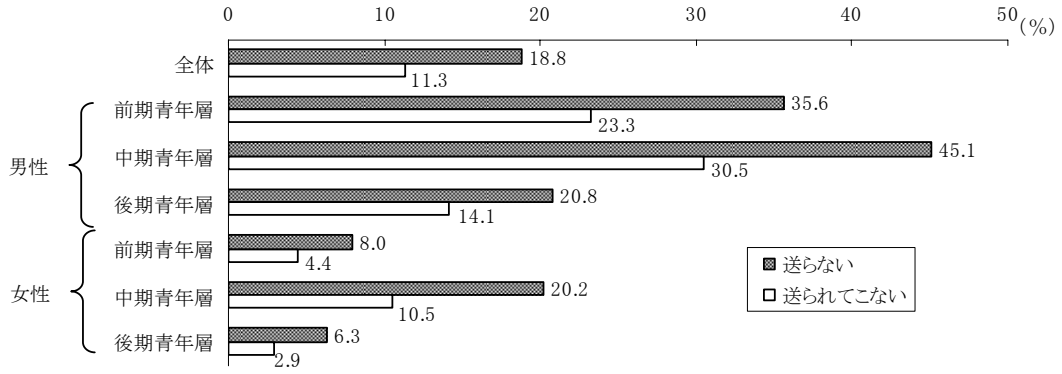
注:性・年齢層別比較は無回答を除いて集計。

DAI-ICHI LIFE RESEARCH INSTITUTE INC.

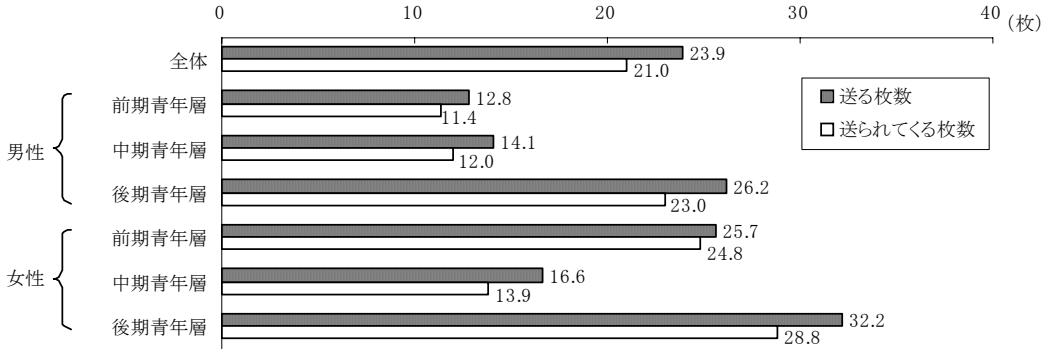
年賀状の利用状況

青年層の約2割は年賀状を「送らない」、約1割は「送られてこない」。
最も利用しないのは男性の中期青年層で、4割強が「送らない」。
年賀状を「送る枚数」「送られてくる枚数」の平均は、ともに 20 枚強。

図表１ 年賀状の利用状況【「送らない」人と「送られてこない」人の割合】（性・年齢層別）



図表２ 年賀状の利用状況【「送る枚数」と「送られてくる枚数」の平均枚数】（性・年齢層別）



注：「送る枚数」「送られてくる枚数」について、それぞれ「0（ゼロ）」と回答した人は除いて集計。

16 歳から 29 歳の青年層が年賀状をどの程度利用しているかをみるために、その利用状況を尋ねたところ、年賀状を「送らない」人は 18.8%でした（図表１）。性・年齢層別にみると、「送らない」「送られてこない」人は、いずれも男性の中期青年層（20～24 歳）で多いことがみてとれます。その一方で、女性はいずれの年齢層でも男性より「送らない」「送られてこない」人が少なくなっていますが、女性だけでみると、男性同様やはり中期青年層で「送らない」「送られてこない」人が多くなっていました。

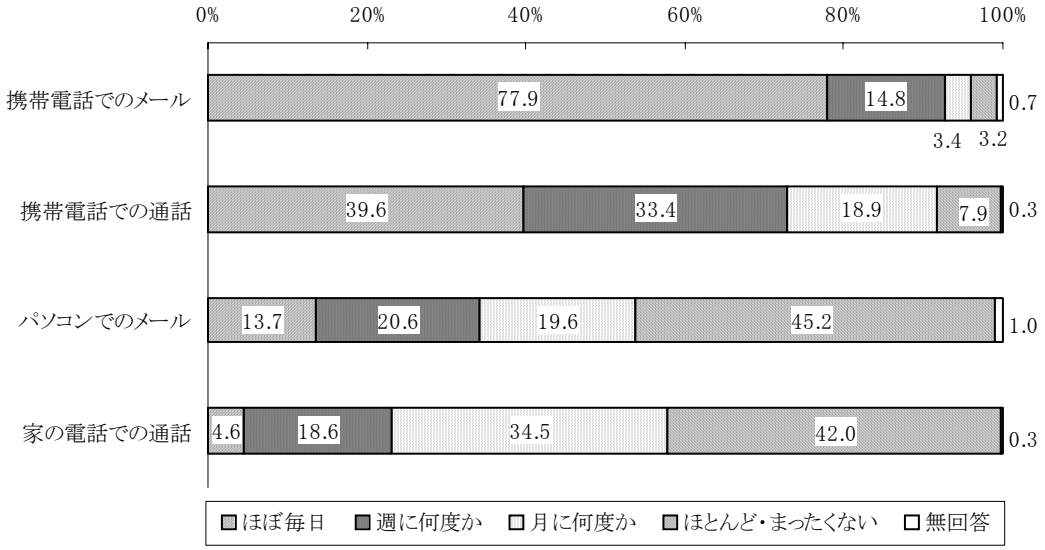
年賀状を利用している人の平均枚数をみると、「送る枚数」は 23.9 枚、「送られてくる枚数」は 21.0 枚でした（図表２）。性・年齢層別にみると、「送る枚数」「送られてくる枚数」ともに、女性の後期青年層（25～29 歳）で最も多く、これに、男性の後期青年層と、女性の前期青年層（16～19 歳）が同程度で続き、これらの枚数が最も少ないのは男性の前期青年層でした。

DAI-ICHI LIFE RESEARCH INSTITUTE INC.

通信メディアの利用状況

青年層の約8割は、「携帯電話でのメール」を「ほぼ毎日」利用している。
青年層の約4割は、「携帯電話での通話」を「ほぼ毎日」利用している。
「パソコンでのメール」「家の電話での通話」は、4割強が使っていない。

図表3 普段、以下の通信メディアをどのくらい使っているか



通信メディアの利用状況を尋ねたところ、利用頻度が最も多いのは「携帯電話でのメール」で、77.9%が「ほぼ毎日」利用しているとし、「週に何度か」を入れると 92.7%にもなりました。次いで多いのは「携帯電話での通話」でしたが、「ほぼ毎日」としたのは 39.6%で、「携帯電話でのメール」の約半分にとどまっています。また、「パソコンでのメール」については、45.2%が「ほとんど・まったくない」と回答しました。「家の電話での通話」については、42.0%が「ほとんど・まったくない」と回答しており、「週に何度か」以上利用する人（「ほぼ毎日」と「週に何度か」の合計）は 23.2%しかいませんでした。

性別にみると、「携帯電話でのメール」は、男性（73.0%）よりも女性（81.0%）で多いのに対し、「携帯電話での通話」については女性（37.6%）よりも男性（44.1%）の方が多くなっていました（図表省略）。

年齢層別にみると、前期青年層（16～19 歳）→中期青年層（20～24 歳）→後期青年層（25～29 歳）と年齢が上がるにつれて「携帯電話でのメール」が少なくなる一方で、「パソコンでのメール」が多くなっていました（図表省略）。

DAI-ICHI LIFE RESEARCH INSTITUTE INC.

通信メディアの利用意向

「恋人や好きな異性」からは男女ともに“声”（携帯電話の通話）が、「仲の良い異性の友人」からは女性は“文字”（携帯電話のメール）が届くとうれしい。女性の約2割は、「恋人や好きな異性」からの「手書きの手紙」がうれしい。

図表4 通信メディアの利用意向（性別）

（単位：%）

	性別	携帯電話のメール	パソコンのメール	携帯電話の通話	家族と共用の加入電話（通話）	手書きの手紙
恋人や好きな異性から連絡をもらって最もうれしいと感じるもの	男性	23.7	4.2	**52.6**	1.6	16.3
	女性	22.2	0.7	**52.5**	1.9	21.7
仲の良い異性の友人から連絡をもらって最もうれしいと感じるもの	男性	38.7	4.7	**44.5**	1.0	10.5
	女性	**51.3**	2.9	35.6	1.0	8.0
あまり連絡をとりたくない異性から連絡をもらうとして、最もイヤだと感じるもの	男性	18.0	2.1	**54.6**	9.8	12.4
	女性	11.5	0.9	**55.6**	12.2	15.7
恋人・夫婦間のコミュニケーションで、ないと困るもの	男性	**47.7**	1.7	41.3	6.4	1.7
	女性	**46.8**	1.2	42.6	6.4	1.7
異性の友人とのコミュニケーションで、ないと困るもの	男性	**69.3**	3.7	24.9	0.5	0.5
	女性	**82.5**	3.0	13.0	0.8	0.3
自分を最も素直にさらけ出せるもの	男性	**54.9**	5.7	25.9	0.5	11.4
	女性	**48.3**	4.2	23.8	2.4	19.3

注：「自分専用の加入電話(通話)」「会社・バイト先の電話（通話）」「公衆電話」「どれも同じくらい・わからない・あてはまらない」についての回答結果を省略しているため、合計は 100 にならない。

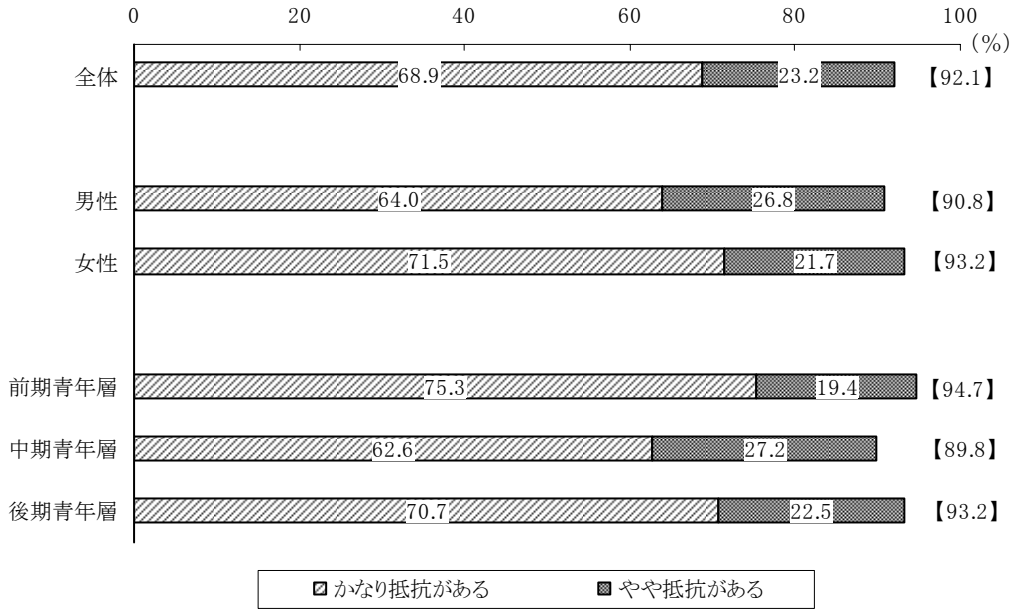
相手別に通信メディアの利用意向を尋ねたものを性別にみると、「恋人や好きな異性から連絡をもらって最もうれしいと感じるもの」は、男女ともに「携帯電話の通話」が最も多いのに対し、「仲の良い異性の友人から連絡をもらって最もうれしいと感じるもの」は、男性では「携帯電話の通話」（44.5%）、女性では「携帯電話のメール」（51.3%）が最も多いことが明らかになりました。これに対応するように、「あまり連絡をとりたくない異性から連絡をもらうとして、最もイヤだと感じるもの」は、男女ともに「携帯電話の通話」があげられました。また、「恋人・夫婦間のコミュニケーションで、ないと困るもの」は、男女ともに「携帯電話のメール」が最も多く、「異性の友人とのコミュニケーションで、ないと困るもの」は、男性の 69.3%、女性では 82.5%が「携帯電話のメール」をあげました。「手書きの手紙」については、「自分が恋人や好きな異性から連絡をもらって最もうれしいと感じるもの」と、「自分を最も素直にさらけ出せるもの」において、比較的高い回答割合を示しました。

DAI-ICHI LIFE RESEARCH INSTITUTE INC.

出会い系サイトへの抵抗感

「かなり抵抗がある」（68%）と「やや抵抗がある」（23%）をあわせると、青年層の約9割が抵抗を感じている。「かなり抵抗がある」人は、前期青年層（75%）で最も多く、中期青年層（62%）で最も少ない。

図表5 出会い系サイトへの抵抗感（性別、年齢層別）



注：「あまり抵抗はない」と「まったく抵抗はない」の回答結果は省略。

出会い系サイトに対して抵抗があるかを尋ねたところ、「かなり抵抗がある」（68.9%）と「やや抵抗がある」（23.2%）をあわせると、92.1%の人が“抵抗あり”と回答しました。

性別にみると、“抵抗あり”と回答した人は、男性（90.8%）に比べて、女性（93.2%）の方が若干多いことがわかります。また、「かなり抵抗がある」と回答した人も、男性（64.0%）に比べると、女性（71.5%）の方が多くなっていました。

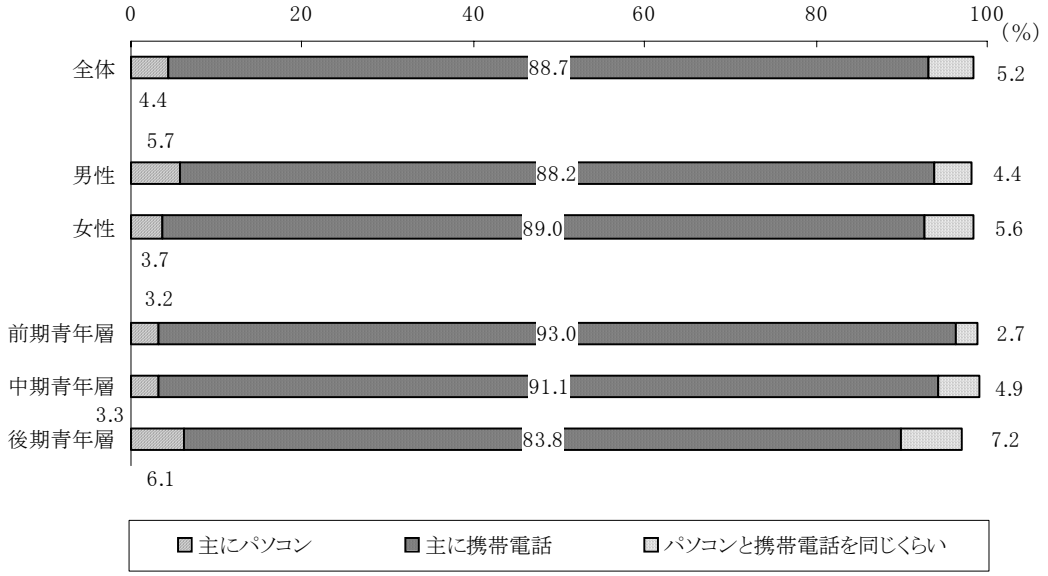
年齢層別にみると、“抵抗あり”と回答した人は、前期青年層（94.7%）と後期青年層（93.2%）では９割以上なのに対して、中期青年層（89.8%）では９割を切っており、相対的に抵抗感が低いことがわかりました。また、同様に、「かなり抵抗がある」と回答した中期青年層も62.6%と、前期青年層（75.3%）や後期青年層（70.7%）と比べてかなり少なく、この層は抵抗感が低いことがみてとれます。

DAI-ICHI LIFE RESEARCH INSTITUTE INC.

電子メールの主な手段

電子メールは、青年層の約9割が「主に携帯電話」を使用して行っている。
「主に携帯電話」を使用する人は、前期青年層で最も多い（93%）。
後期青年層になると「主に携帯電話」を使用する人は少なくなり（83%）、
代わって「主にパソコン」「パソコンと携帯電話を同じくらい」が若干増える。

図表6 電子メールは、携帯電話とパソコン主にどちらを使用しているか（性別、年齢層別）



注:「どちらも全く使わない」の回答結果は省略。

電子メールの主な手段として、携帯電話とパソコンどちらを使用しているかを尋ねたところ、88.7%の人が「主に携帯電話」でした。また、「主にパソコン」を使用している人は4.4%、「パソコンと携帯電話を同じくらい」使用している併用型は5.2%しかいませんでした。

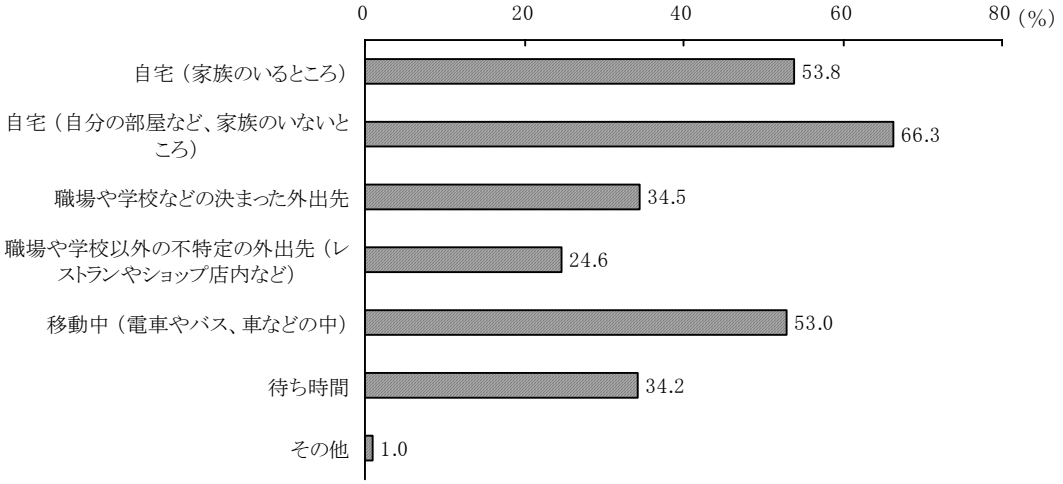
性別では大きな差はみられませんでしたが、年齢層別にみると、「主に携帯電話」を使用している人は前期青年層で最も多く、前期青年層（93.0%）＞中期青年層（91.1%）＞後期青年層（83.8%）となっていました。これに対して、「主にパソコン」を使用している人と、「パソコンと携帯電話を同じくらい」使用している人は、どちらも年齢が上がるにつれて多くなり、後期青年層＞中期青年層＞前期青年層となっていました。

DAI-ICHI LIFE RESEARCH INSTITUTE INC.

電子メールの利用場所

最も多いのは、「自宅（自分の部屋など、家族のいないところ）」（66%）。
男性は特に、「自宅」でも“家族のいないところ”（74%）でする人が多い。
後期青年層では、「自宅」でも“家族のいるところ”（57%）が最も多くなる。

図表7 電子メールをどこでするか（性別、年齢層別）＜複数回答＞



	男性	女性	前期青年層	中期青年層	後期青年層
自宅（家族のいるところ）	40.1	61.0	59.7	47.2	57.0
自宅（自分の部屋など、家族のいないところ）	74.4	63.3	75.8	76.4	52.2
職場や学校などの決まった外出先	39.2	32.7	35.5	38.2	31.3
職場や学校以外の不特定の外出先（レストランやショップ店内など）	28.6	23.1	23.1	27.2	23.9
移動中（電車やバス、車などの中）	44.5	57.7	53.8	57.3	49.6
待ち時間	33.9	34.8	24.7	36.2	39.7
その他	1.8	0.6	1.6	0.8	0.7

電子メールを普段どこでするかを複数回答で尋ねたところ、「自宅（自分の部屋など、家族のいないところ）」（66.3%）が最も多く、次いで「自宅（家族のいるところ）」（53.8%）でした。これらの結果は、携帯電話が“携帯”目的というよりもむしろ、“自分専用のコミュニケーションツール”として位置づけられていることをあらわしています。

性別にみると、男性では、74.4%が「自宅（自分の部屋など、家族のいないところ）」をあげており、「自宅（家族のいるところ）」は 40.1%にとどまっていました。これに対して女性では、同じ「自宅」でも、“家族のいるところ”（61.0%）、“家族のいないところ”（63.3%）ともに６割強を占めていました。

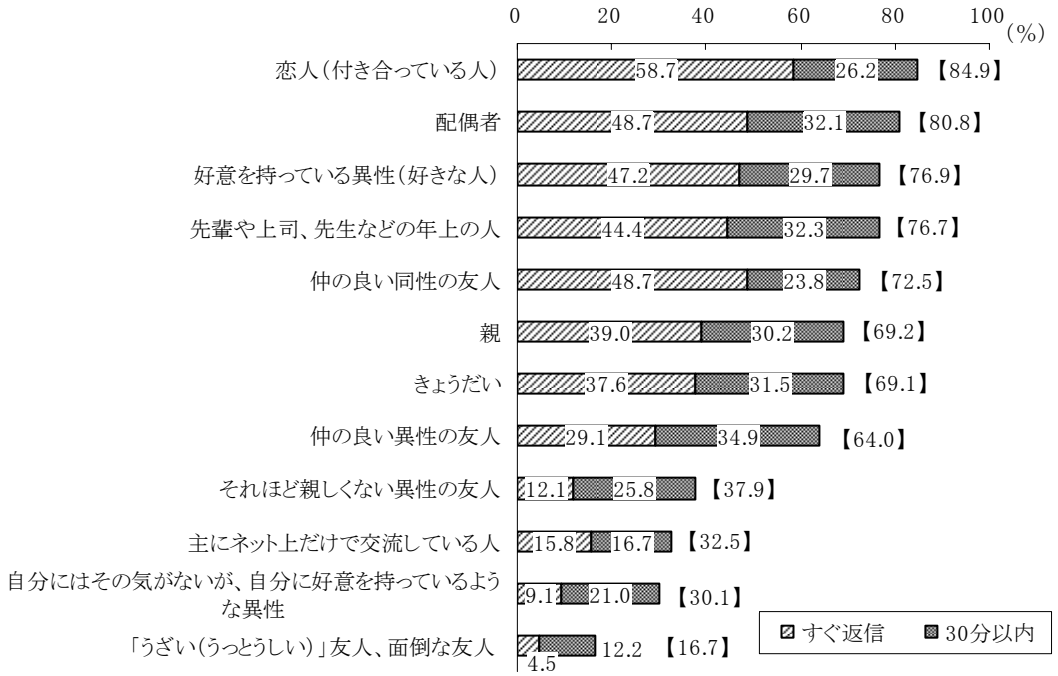
年齢層別にみると、前期青年層と中期青年層では「自宅（自分の部屋など、家族のいないところ）」が最も多いのに対し、後期青年層では「自宅（家族のいるところ）」が最多でした。

DAI-ICHI LIFE RESEARCH INSTITUTE INC.

電子メール返信のタイミング

最も返信が速い相手は「恋人（付き合っている人）」で、約6割が「すぐ返信」する。特定の相手を除けば、6割以上が 30 分以内には返信している。

図表8 相手別にみた電子メール返信のタイミング



注：「1時間以内くらい」「数時間以内」「翌日以降」「まったく返信しない」「メールは来ないなど、あてはまらない」の回答結果は省略。

相手別に電子メールの返信のタイミングについて尋ねたところ、「すぐ返信」が最も多かった相手は「恋人（付き合っている人）」（58.7%）でした。以下、「配偶者」（48.7%）、「仲の良い同性の友人」（48.7%）、「好意を持っている異性（好きな人）」（47.2%）、「先輩や上司、先生などの年上の人」（44.4%）が４割以上と続いています。

また、“30 分以内に返信する”（「すぐ返信」と「30 分以内」の合計）割合をみると、「それほど親しくない異性の友人」（37.9%）、「主にネット上だけで交流している人」（32.5%）、「自分にはその気がないが、自分に好意を持っているような異性」（30.1%）、「うざい（うっとうしい）友人、面倒な友人」（16.7%）以外の相手に対しては、６割以上の人が 30 分以内には返信している実態が明らかになりました。

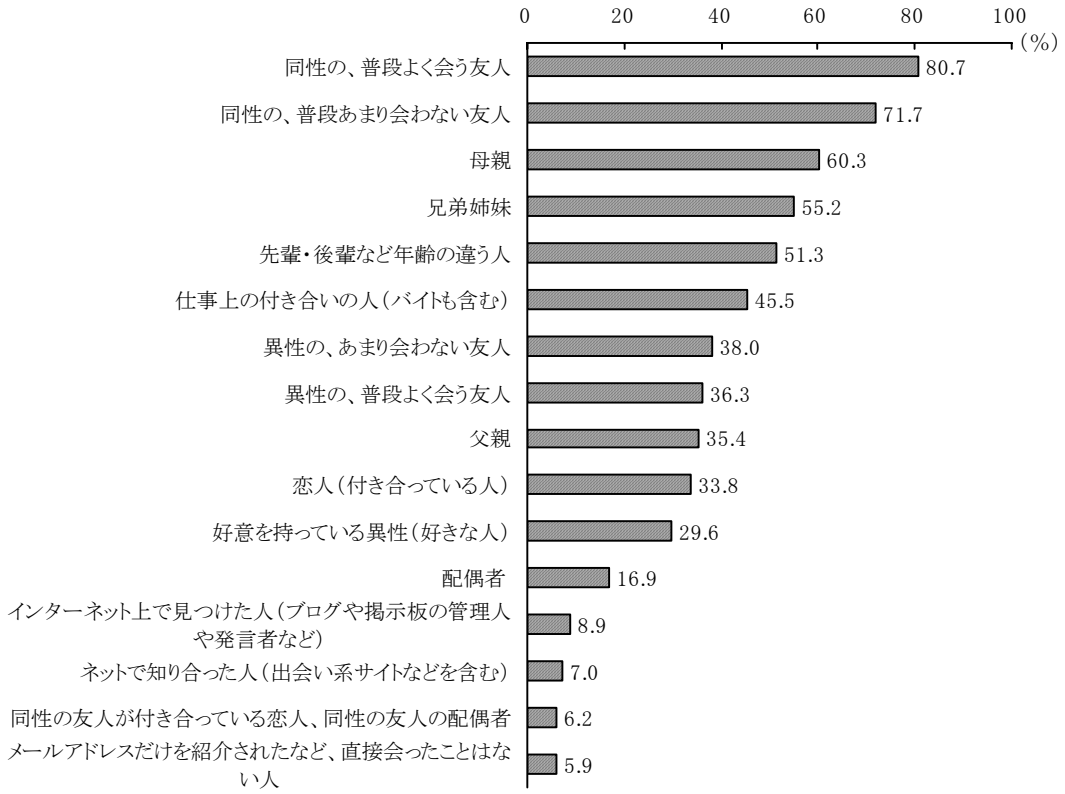
性別、年齢層別では、「仲の良い異性の友人」「それほど親しくない異性の友人」「自分にはその気がないが、自分に好意を持っているような異性」に対して返信が速いのは女性よりも男性に多く、「恋人（付き合っている人）」に対して速いのは前期・中期青年層、「好意を持っている異性（好きな人）」に対して速いのは前期青年層、などの特徴がみられました（図表省略）。

DAI-ICHI LIFE RESEARCH INSTITUTE INC.

電子メールでやりとりする相手①

最も多いのは「同性の、普段よく会う友人」（80%）で、次いで、「同性の、普段あまり会わない友人」（71%）と、“同性の友人”が多い。

図表9 電子メールでやりとりする相手＜複数回答＞



注：全員に対して複数回答で尋ねており、「恋人」や「配偶者」などについては、母数に「恋人がいない人」「配偶者がいない人」も含まれているため、順位が下位になっている。
恋人や配偶者の有無については、P1の回答者の現況を参照のこと。

電子メールでやりとりする相手は誰かを複数回答で尋ねたところ、「同性の、普段よく会う友人」（80.7%）が最も多く、次いで「同性の、普段あまり会わない友人」（71.7%）でした。また、３位と４位を占めたのは、それぞれ「母親」（60.3%）、「兄弟姉妹」（55.2%）で、父親以外の肉親も上位にきました。

以下、「先輩・後輩など年齢の違う人」（51.3%）、「仕事上の付き合いの人（バイトも含む）」（45.5%）、「異性の、あまり会わない友人」（38.0%）、「異性の、普段よく会う友人」（36.3%）、「父親」（35.4%）と続いていました。

DAI-ICHI LIFE RESEARCH INSTITUTE INC.

電子メールでやりとりする相手②

「同性の、普段あまり会わない友人」「兄弟姉妹」「配偶者」「異性の、あまり会わない友人」「父親」とは、男性よりも女性の方が特に多い。
「同性の、普段よく会う友人」「母親」「父親」とは、高い年代ほど少ない。

図表 10 電子メールでやりとりする相手（性別、年齢層別）＜複数回答＞

（単位：%）

	男性	女性	前期青年層	中期青年層	後期青年層
同性の、普段よく会う友人	78.9	84.1	89.1	83.8	76.8
同性の、普段あまり会わない友人	57.4	80.7	72.1	72.6	74.5
母親	55.6	64.4	69.9	67.6	50.6
兄弟姉妹	42.6	62.9	44.8	54.8	65.7
先輩・後輩など年齢の違う人	47.5	54.7	57.4	56.8	45.0
仕事上の付き合いの人（バイトも含む）	41.3	48.9	21.3	61.0	50.6
異性の、あまり会わない友人	30.9	42.6	33.3	45.6	36.5
異性の、普段よく会う友人	36.3	37.5	43.2	43.6	27.3
父親	28.7	39.6	43.2	39.4	28.4
恋人（付き合っている人）	32.7	35.4	22.4	47.7	31.0
好意を持っている異性（好きな人）	29.6	30.5	29.5	36.1	25.5
配偶者	4.9	23.1	1.1	4.6	39.5
インターネット上で見つけた人（ブログや掲示板の管理人や発言者など）	7.6	9.7	10.9	10.4	6.6
ネットで知り合った人（出会い系サイトなどを含む）	5.8	7.8	4.9	8.7	7.4
同性の友人が付き合っている恋人、同性の友人の配偶者	5.8	6.6	9.3	7.5	3.3
メールアドレスだけを紹介されたなど、直接会ったことはない人	3.6	7.2	8.2	6.6	4.1

性別にみると、すべての相手に対して女性は男性を上回っており、中でも特に、「同性の、普段あまり会わない友人」（23.3 ポイント差）、「兄弟姉妹」（20.3 ポイント差）、「異性の、あまり会わない友人」（11.7 ポイント差）、「父親」（10.9 ポイント差）などでは、その差は大きくなっていました。配偶者も男女差が目立っていますが、これについては、男性に比べて女性で既婚者が多いことが影響しているものと推察されます（Ｐ１「回答者の現況」参照）。

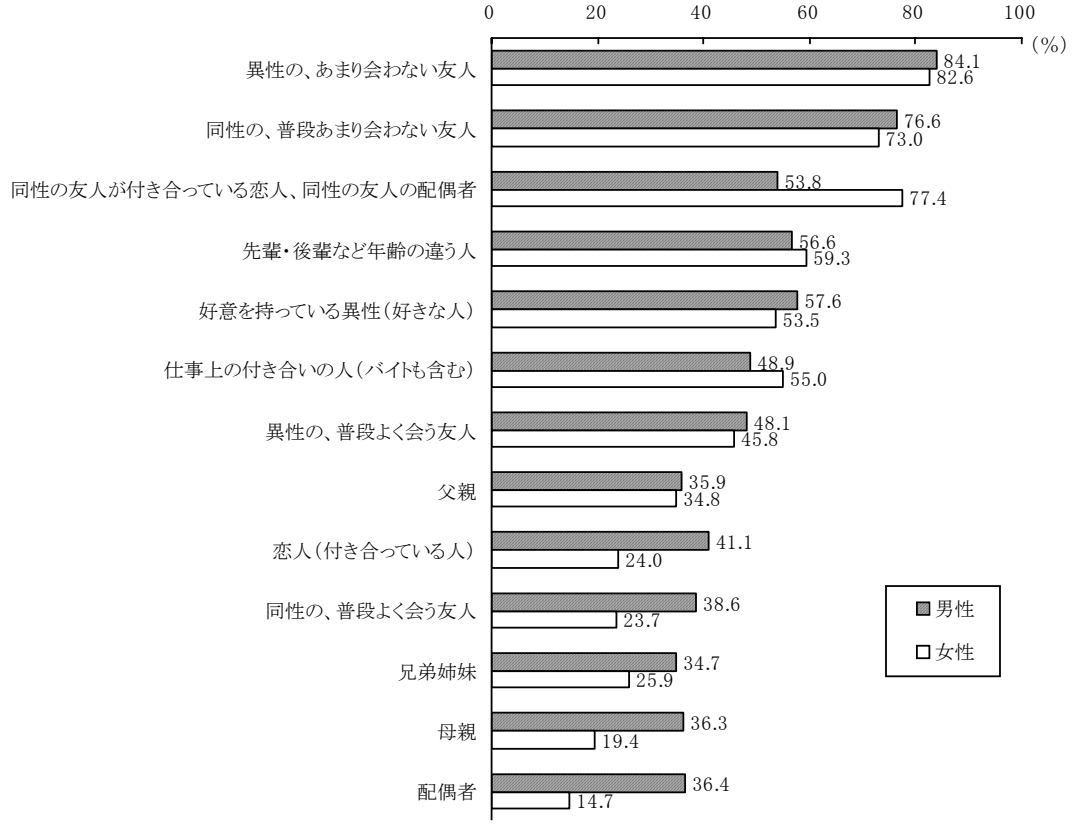
年齢層別にみると、「同性の、普段よく会う友人」や「母親」、「父親」などとのやりとりは、前期青年層＞中期青年層＞後期青年層と、後期青年層で最も少なくなっていました。また、それらとは対照的に、「兄弟姉妹」とのやりとりは、後期青年期＞中期青年期＞前期青年期と、高い年代ほど多いことがみてとれます。これは、結婚などで兄弟姉妹と離れるケースが増えることによるものと考えられます。また、高い年代ほど親とのメールが少なくなっていることについては、親自身が高齢でメールを利用していない人が多いことが推察されます。なお、「仕事上の付き合いの人（バイトも含む）」や「異性の、あまり会わない友人」、「恋人（付き合っている人）」などとのやりとりは、中期青年層で最も多くなっていました。

DAI-ICHI LIFE RESEARCH INSTITUTE INC.

電子メールがなかったら今ほど連絡していない人①

「異性の、あまり会わない友人」が、男女ともに8割以上と最も多い。
次いで多いのは、男性は「同性の、普段あまり会わない友人」、
女性は「同性の友人が付き合っている恋人、同性の友人の配偶者」。

図表 11　電子メールがなかったら今ほど連絡していない人（性別）



注：「やりとりすることがある」としてあげられた人のうち、「電子メールがなかったら今ほど連絡していない」と回答した人の割合。

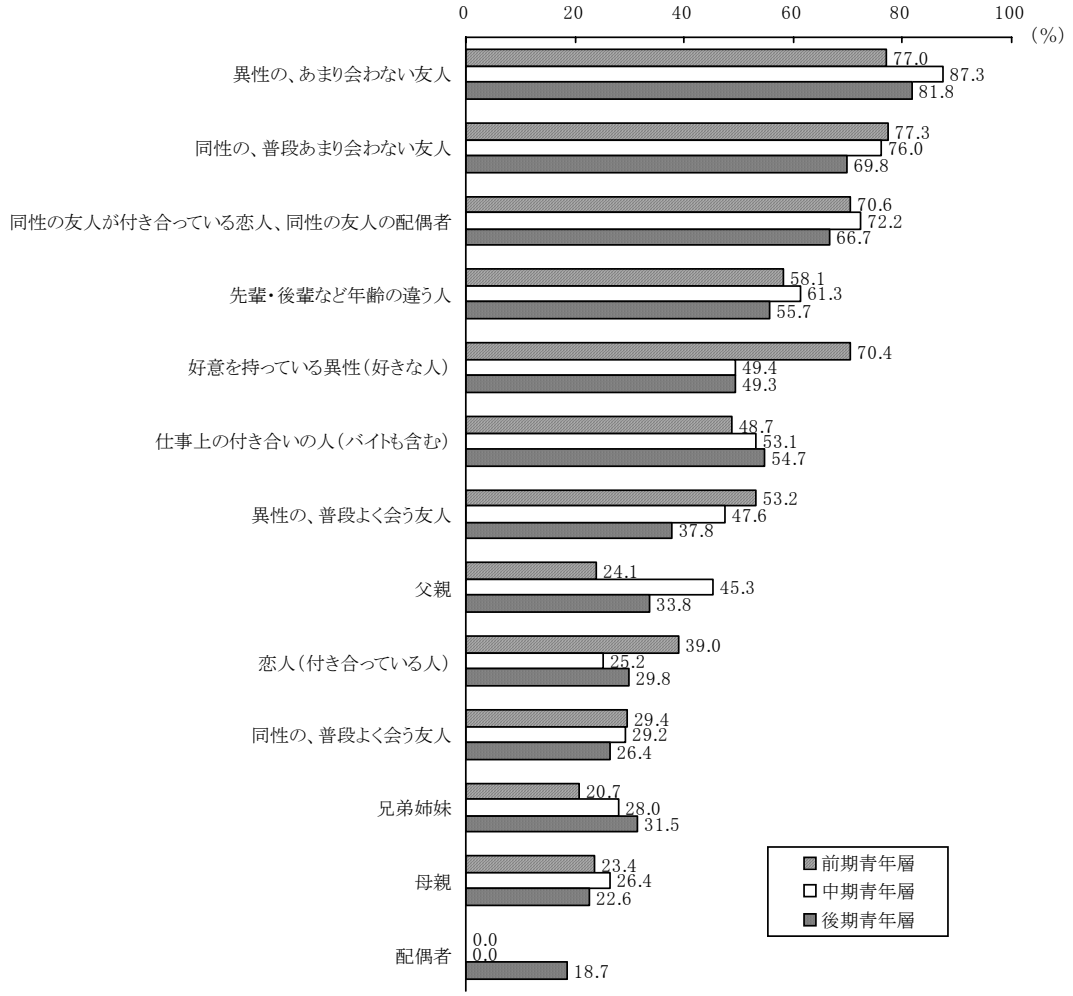
電子メールのやりとりがある人のうち、電子メールがなかったら今ほど連絡をとっていないと思う人について尋ねたところ、男女ともに「異性の、あまり会わない友人」が８割以上と最多でした。次いで、男性で多いのは「同性の、普段あまり会わない友人」（76.6%）、女性で多いのは「同性の友人が付き合っている恋人、同性の友人の配偶者」（77.4%）となり、特に後者は、男性（53.8%）に比べて女性の方が非常に多くなっていました。

DAI-ICHI LIFE RESEARCH INSTITUTE INC.

電子メールがなかったら今ほど連絡していない人②

他の年齢層に比べ、前期青年層では「好意を持っている異性（好きな人）」と「恋人（付き合っている人）」、中期青年層では「父親」が多い。

図表 12 電子メールがなかったら今ほど連絡していない人（年齢層別）



注：「やりとりすることがある」としてあげられた人のうち、「電子メールがなかったら今ほど連絡していない」と回答した人の割合。

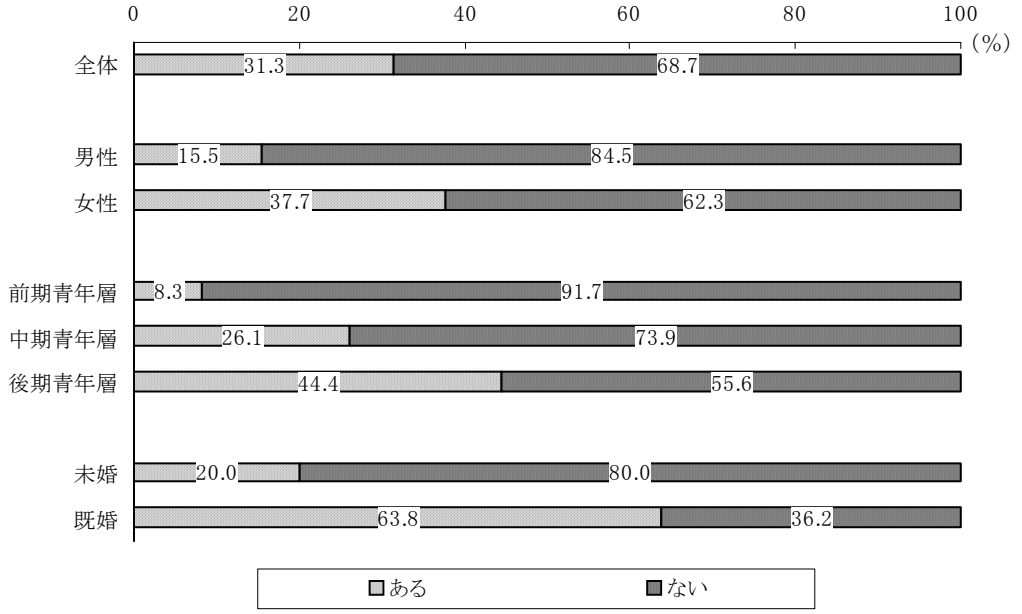
年齢層別にみると、特徴として、<u>他の年齢層に比べ、前期青年層で「好意を持っている異性（好きな人）」（70.4%）と「恋人（付き合っている人）」（39.0%）が多いこと、また、中期青年層で「父親」（45.3%）が多いこと</u>などがあげられます。

DAI-ICHI LIFE RESEARCH INSTITUTE INC.

恋人や配偶者の電子メール履歴のチェック経験

約3割はチェック経験があり、男性（15%）よりも女性（37%）に多い。チェック経験がある人は、前期（8%）＜中期（26%）＜後期（44%）と年齢が上がるほど増え、未婚（20%）よりも既婚（63%）の方が多い。

図表 13 恋人や配偶者の電子メール履歴のチェック経験（性別、年齢層別、未既婚別）



注:「恋人や配偶者がいたことがないのであてはまらない」とした人を除いて集計。

恋人や配偶者がいる人に対し、恋人や配偶者の電子メールの履歴をチェックした経験があるかどうかを尋ねたところ、31.3%の人は「ある」と回答しました。

性別にみると、チェック経験が「ある」人は、男性の 15.5%に対し、女性では 37.7%と倍以上の差があること がわかりました。

年齢層別にみると、チェック経験が「ある」人は、前期青年層（8.3%）＜中期青年層（26.1%）＜後期青年層（44.4%）と、年齢が上がるほど大幅に増加します。

未既婚別にみると、チェック経験が「ある」人は、未婚の 20.0%に比べ、既婚では 63.8%と大きく差があること がみてとれます。

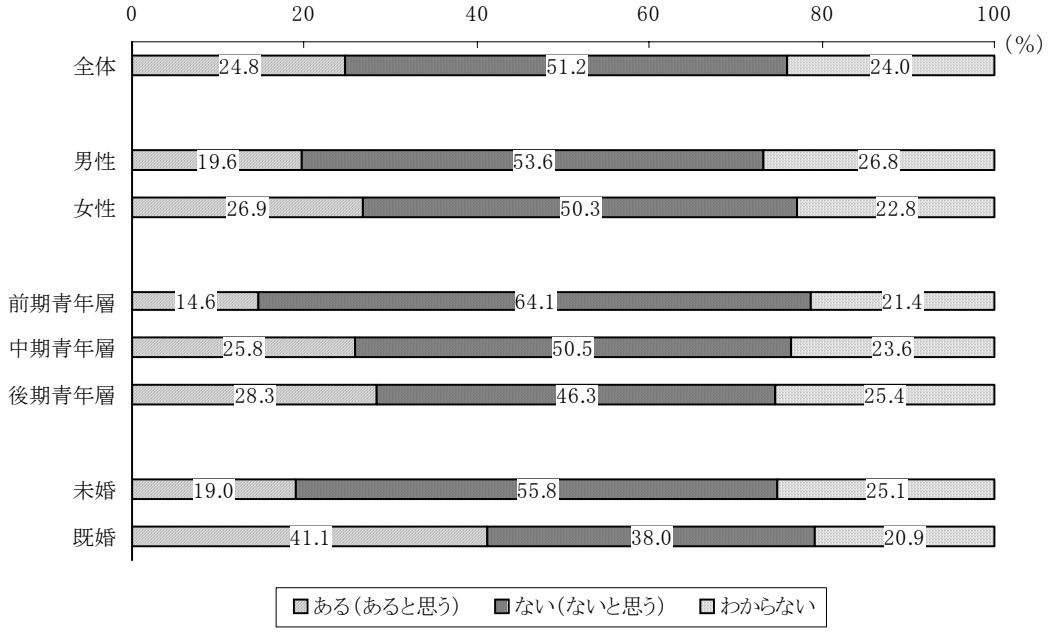
年齢層・未既婚別にみると、「ある」人は、中期青年層・後期青年層ともに既婚では６割を超えるのに対し、未婚では２割台にとどまっていることがわかりました（図表省略）。つまり、「恋人」のメール履歴についてはそれほどチェックしていませんが、「配偶者」の場合はチェックしている人が多いということになります。また、女性の方が「ある」人が多いことからも、“夫の履歴をチェックしている妻は多い”といえます。

DAI-ICHI LIFE RESEARCH INSTITUTE INC.

恋人や配偶者に電子メール履歴をチェックされた経験

4分の1はチェックされた経験があり、男性（19%）よりも女性（26%）に多い。チェックされた経験がある人は、前期（14%）＜中期（25%）＜後期（28%）と年齢が上がるほど増え、未婚（19%）よりも既婚（41%）の方が多い。

図表 14 恋人や配偶者に電子メール履歴をチェックされた経験（性別、年齢層別、未既婚別）



注:「恋人や配偶者がいたことがないのであてはまらない」とした人を除いて集計。

恋人や配偶者に自分の電子メールの履歴をチェックされた経験があるかどうかを尋ねたところ、24.8%の人はチェックされた経験が「ある」、もしくは「あると思う」と回答しました。

性別にみると、チェックされた経験が「ある（あると思う）」人は、男性の 19.6%に対し、女性では 26.9%と、女性の方が多いことがわかりました。

年齢層別にみると、チェックされた経験が「ある（あると思う）」人は、前期青年層（14.6%）＜中期青年層（25.8%）＜後期青年層（28.3%）の順に増加しています。

未既婚別にみると、チェックされた経験が「ある（あると思う）」人は、未婚の 19.0%に比べ、既婚では 41.1%と前頁同様差が大きいことがみてとれます。

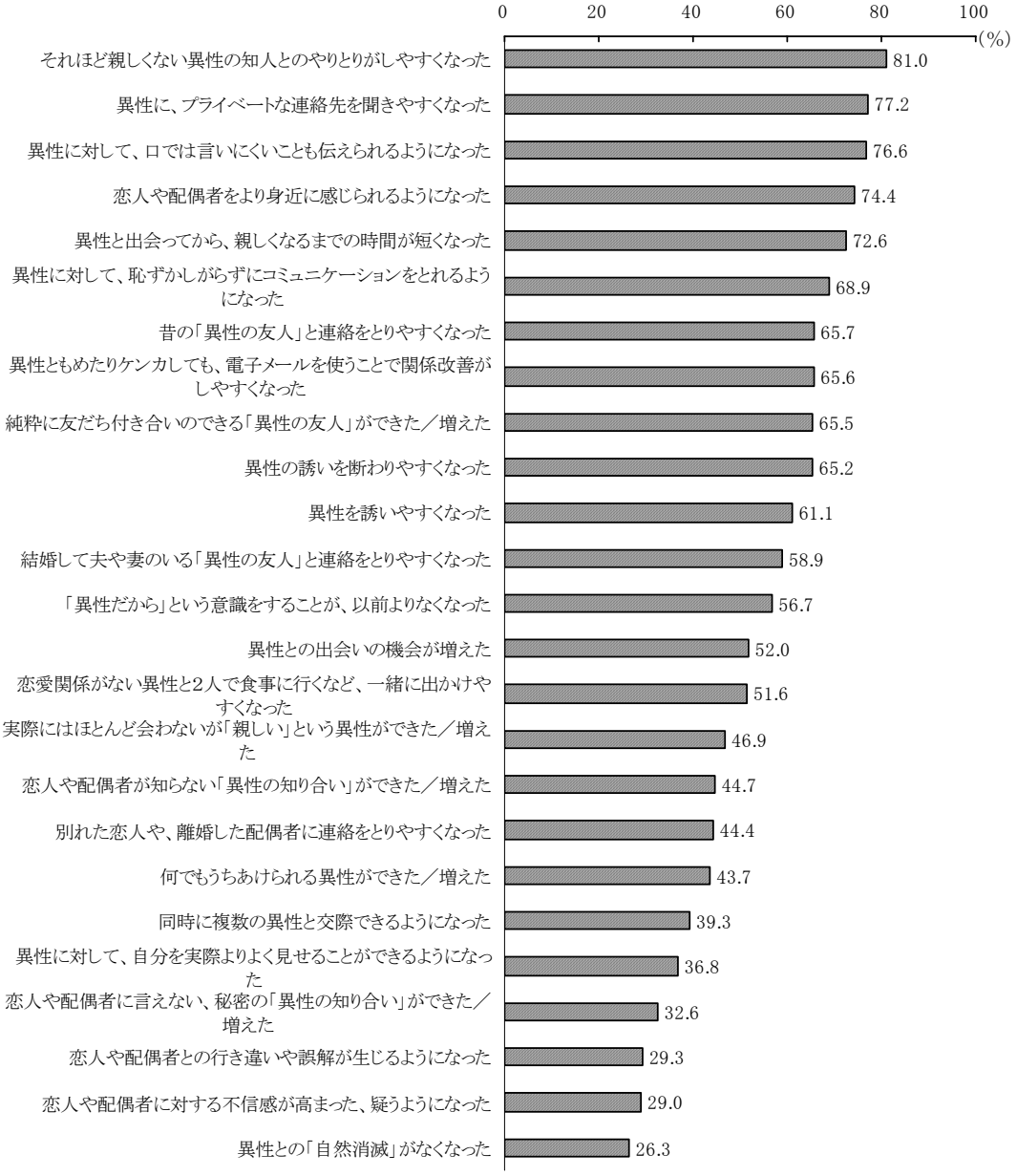
年齢層・未既婚別にみると、「ある（あると思う）」人は、中期青年層・後期青年層ともに既婚では４割を超えており、特に中期青年層の既婚では 46.7%と多いことがわかりました（図表省略）。いまどきの 20 代の妻は、夫の電子メール履歴のチェックをしている人が多く、また、自分がチェックされていると思っている人も多いようです。

DAI-ICHI LIFE RESEARCH INSTITUTE INC.

電子メールの普及による異性関係への影響①

最も多いのは「それほど親しくない異性の知人とのやりとりがしやすくなった」（81%）。全体的に、“人間関係の維持”という側面での支持が多い。

図表 15 電子メールの普及による異性関係への影響＜複数回答＞



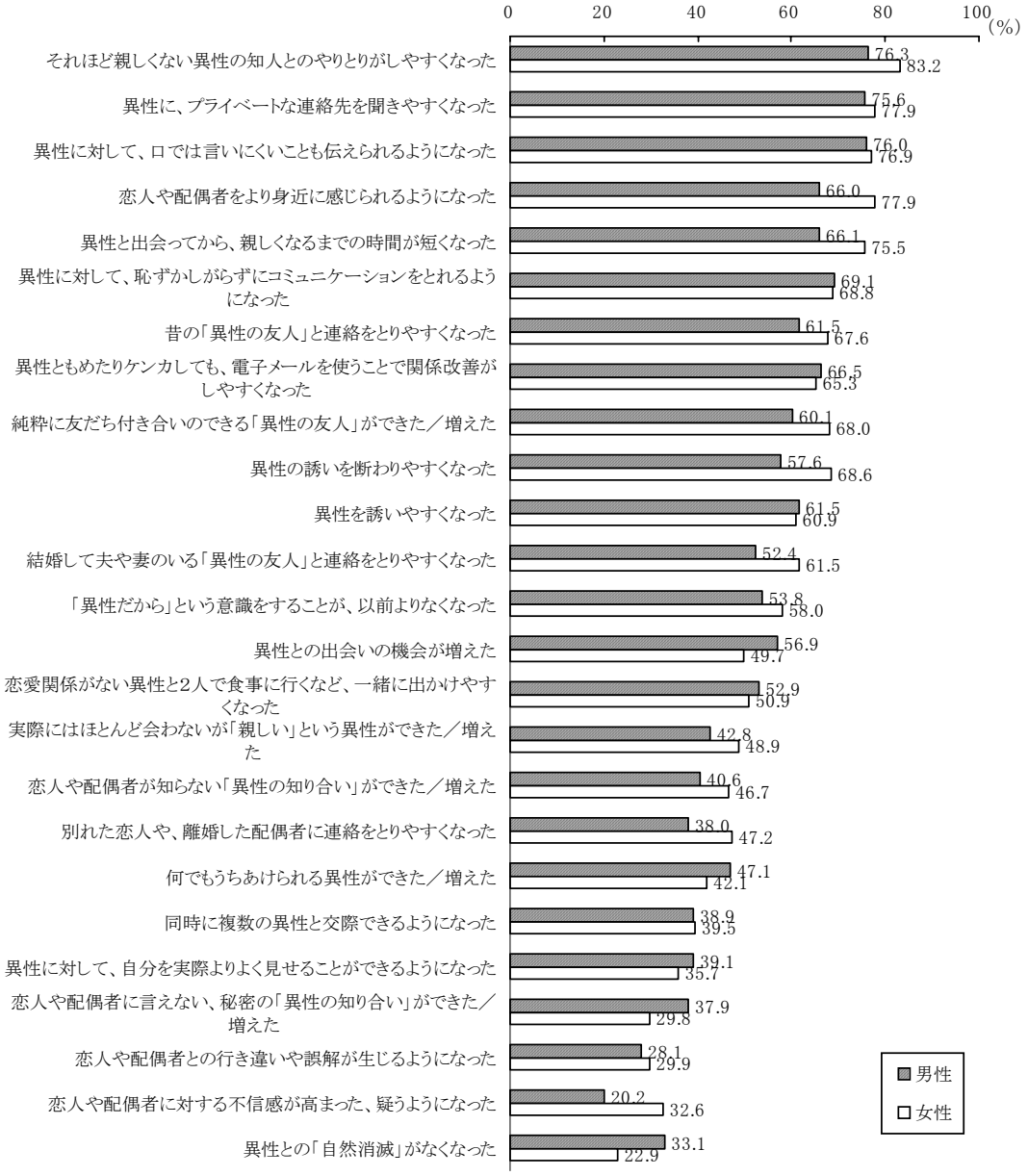
注：「そう思う」と「まあそう思う」の合計。

DAI-ICHI LIFE RESEARCH INSTITUTE INC.

電子メールの普及による異性関係への影響②

男性に多いのは「異性との出会いが増えた」「秘密の異性の知り合いができた」、女性に多いのは「恋人や配偶者を身近に感じるようになった」「異性の誘いを断りやすくなった」「恋人や配偶者への不信感が高まった」など。

図表 16 電子メールの普及による異性関係への影響（性別）＜複数回答＞



注：「そう思う」と「まあそう思う」の合計。

DAI-ICHI LIFE RESEARCH INSTITUTE INC.

電子メールが異性との関係にどのような影響を及ぼしたかを複数回答で尋ねました。

【図表 15】

その結果、最も多いのは「それほど親しくない異性の知人とのやりとりがしやすくなった」（81.0%）でした。

以下、「異性に、プライベートな連絡先を聞きやすくなった」（77.2%）、「異性に対して、口では言いにくいことも伝えられるようになった」（76.6%）、「恋人や配偶者をより身近に感じられるようになった」（74.4%）、「異性と出会ってから、親しくなるまでの時間が短くなった」（72.6%）が７割以上と続きました。

また、「異性に対して、恥ずかしがらずにコミュニケーションをとれるようになった」（68.9%）、「昔の『異性の友人』と連絡をとりやすくなった」（65.7%）、「異性ともめたりケンカしても、電子メールを使うことで関係改善がしやすくなった」（65.6%）、「純粋に友だち付き合いのできる『異性の友人』ができた／増えた」（65.5%）、「異性の誘いを断わりやすくなった」（65.2%）、「異性を誘いやすくなった」（61.1%）なども、６割以上と比較的多い回答を得ました。

その一方で、「恋人や配偶者との行き違いや誤解が生じるようになった」（29.3%）、「恋人や配偶者に対する不信感が高まった、疑うようになった」（29.0%）、「異性との『自然消滅』がなくなった」（26.3%）については、いずれも３割未満と少ない結果になりました。

【図表 16】

性別にみると、男性が女性を大きく上回ったのは、「異性との出会いの機会が増えた」（56.9%）、「恋人や配偶者に言えない、秘密の『異性の知り合い』ができた／増えた」（37.9%）、「異性との『自然消滅』がなくなった」（33.1%）などでした。

それとは逆に、女性が男性を大きく上回ったものは、「恋人や配偶者をより身近に感じられるようになった」（77.9%）、「異性と出会ってから、親しくなるまでの時間が短くなった」（75.5%）、「異性の誘いを断わりやすくなった」（68.6%）、「結婚して夫や妻のいる『異性の友人』と連絡をとりやすくなった」（61.5%）、「別れた恋人や、離婚した配偶者に連絡をとりやすくなった」（47.2%）、「恋人や配偶者に対する不信感が高まった、疑うようになった」（32.6%）などがあげられます。

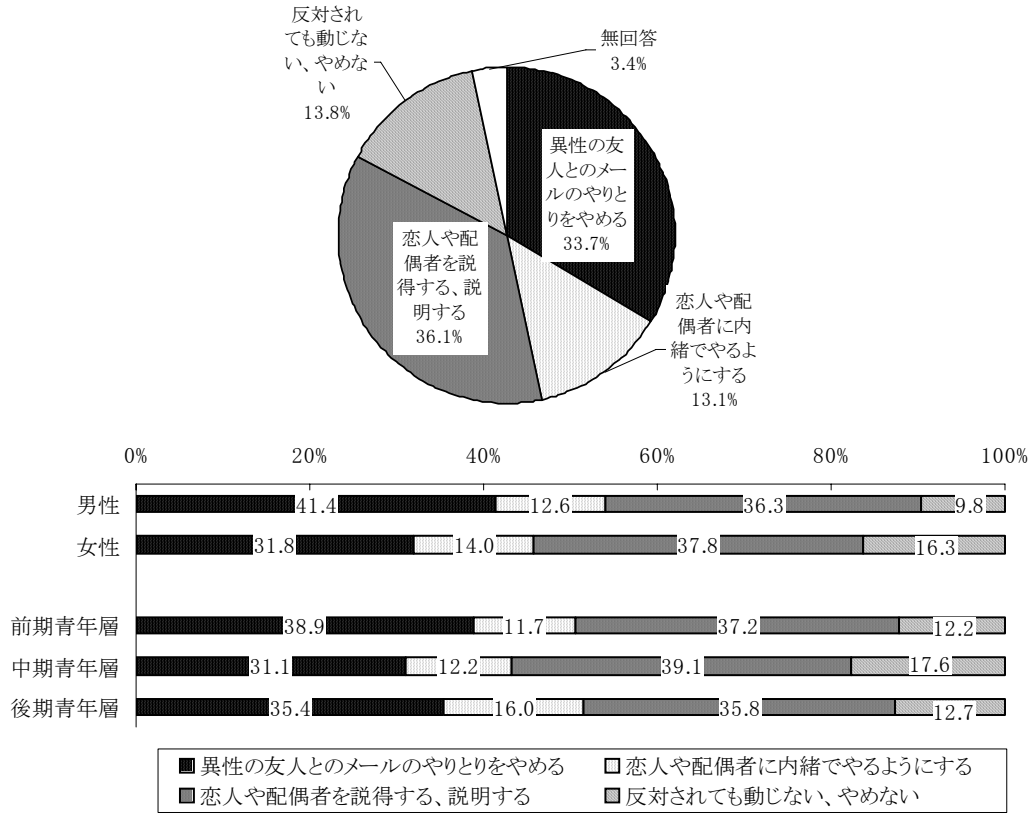
電子メールの履歴チェック状況からもみられましたが、電子メールを利用することによって、女性が男性に比べて恋人や配偶者に対する不信感を募らせていることがここでも明らかになりました。

DAI-ICHI LIFE RESEARCH INSTITUTE INC.

異性の友人とのメール交換をやめろといわれたら

男性は「メールのやりとりをやめる」(41%)、女性は「恋人や配偶者を説得する」(37%)が最も多い。1割強は「動じない、やめない」「内緒でやる」。

図表 17 恋人や配偶者に異性の友人とのメール交換をやめろといわれたら(性別、年齢層別)



注:「無回答」は除く。

配偶者や恋人から、異性の友人とのメール交換をやめろといわれたらどうするかを尋ねたところ、「恋人や配偶者を説得する、説明する」(36.1%)が最も多く、「異性の友人とのメールのやりとりをやめる」(33.7%)よりも多いことがわかりました。また、「恋人や配偶者に内緒でやるようにする」や「反対されても動じない、やめない」は、ともに13%程度でした。

性別にみると、最も多いのは、男性では「やりとりをやめる」(41.4%)であるのに対し、女性では「説得する」(37.8%)でした。また、「内緒でやるようにする」と「動じない、やめない」については、男性よりも女性の方がやや多くなっていました。

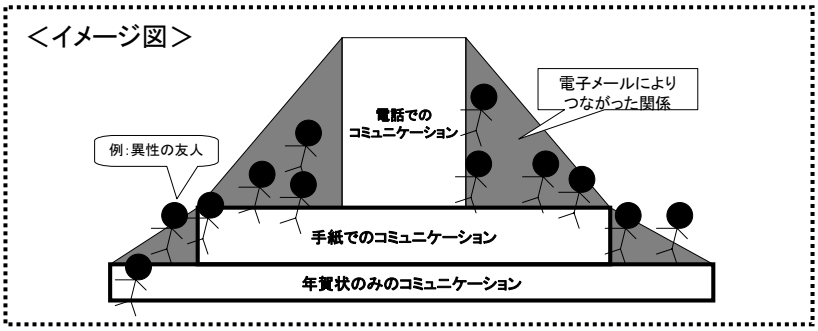
年齢層別にみると、中期青年層では「やりとりをやめる」(31.1%)が相対的に少ない一方で、「説得する」(39.1%)が多く、「動じない、やめない」(17.6%)も他の年齢層より多くなっていました。また、後期青年層では「内緒でやるようにする」が相対的に多くなっています。

DAI-ICHI LIFE RESEARCH INSTITUTE INC.

≪研究員のコメント≫

従来においては、プライベートなコミュニケーションは「親しい人とは頻繁に電話」「そこそこ親しい人とは手紙のやりとり」「それほど親しくない人は年に１回の年賀状交換」･･･などのように、選択される通信メディアによってある程度の関係性の強弱がみえていました。しかし、電子メールの普及によって、これらの強弱はみえにくくなりました。なぜなら電子メールは、関係性が強い層においても弱い層においても活用される通信メディアだからです。

本調査では、これを踏まえ、異性との付き合いにおいて電子メールがどのように関わっているのかを調べました。その結果、従来でいえば、いわゆる「電話でのコミュニケーションを行う関係」未満で、「年に１回の年賀状交換での付き合い」超ですが、「手紙の交換」を行うほどでもないという関係において、積極的な交流が可能となりました。今回の調査結果からいえば、「異性との友人関係」がその最たるものです。



恋愛感情がないながらも（もしくは恋愛感情を阻む要因がありながら）、心理的に近い距離にいたり、親和性が高い異性関係において、電子メールは気軽に連絡をとりあえる手段として定着しています。例えば、片方ないし両方が既婚者である場合の異性の友人関係においては、電話や手紙によるコミュニケーションに対する心理的抵抗は強く、必然的に会う機会がない限り、そうやすやすと連絡をとれる状況にはありませんでした。相手の配偶者等、家族に対する気遣いも必要ですし、電話や手紙だと相手に心理的な負担をかけるというイメージがあります。しかしながら、これが電子メールになると、相手の都合や時間帯に配慮することもなく、“軽く”送れるために、そうした気遣いが不要となるのです。

ただし、こうした電子メールは隠匿性が高いため、やりとりの事実のみで、かえって相手の周囲の人間にあらぬ疑心を抱かせているのもまた事実です。実際に「不倫がしやすくなる」「二股をかけやすくなった」という意見も聞かれました。このため、「結婚後は異性の友人とのメールのやりとりをしないようになった」「異性にメールをする場合は配偶者の近くで」などといった配慮をしている人もいます。

コミュニケーションの簡易化によって付き合いの幅も広がりをみせています。しかしながら、“文字だけでつながることができる”一方で、“文字により崩壊する”関係も少なくありません。改めて「信頼性」が問われる社会であると感じます。

（研究開発室 副主任研究員　宮木 由貴子）

DAI-ICHI LIFE RESEARCH INSTITUTE INC.